語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語 (18) (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後藤 寛

英語は職人気質で毎日同じことの繰り返し (doing the same thing day after day) なしには、実際にはモノにはならない。Basic 第一主義でまったくよい ('Basic First' is all right full stop.) が、ただ、何年も変わらず元々が無限にある Basic の表現法を追うことのみでは、やはり対外的に特には関心をもたれることは今後もなかろう。Basic と一般英語の接点を求める理論的追究となると学会・学界からも注目され、次々と未開の分野へと発展性も出てくることとなる。たとえば I.A. Richards の試みた Basic を尺度とした literary criticism (文芸批評) などもある。

将来的には多数の大学院後期博士課程の学生や修了者で、英語圏での研究留学による生活体験をもつ若手の研究者による新たな追究と研究業績が期待される。そのための参考文献は十分整っている。C.K. Ogden (編) *Psyche* [全 18 巻] などは言語学のみならず、心理学など関連領域の専門的見地からも注目されてよいものである。

Trump 大統領は連日 Twitter に特徴ある orthography (正字法) を用いた英文で書き込みをする。一般には大文字としない語 (句) も次々と大文字書きとするが、きわめて任意であり、word stress (語強勢) も絶対なる基準などないことを彼の書き物はよく示す。秒・分単位で全米・全世界から返信文もネット上に流れてくる。まるで一日中パソコンに向かい彼の tweets と返信・関連する諸々の情報を刻々と追っていると一瞬、職人の英文ジャーナリストのような感覚 (?) すらもつこともあるが、本連載では特に語彙面から Basic と一般英語の接点を意識したものとして見ているわけである。

目下、米議会ではロシア疑惑とは別なウクライナ疑惑(Ukraine allegations)が持ち上がっており、Trump 大統領の弾劾(impeachment)が叫ばれている。これは 2020 年の大統領選で彼の政敵となる Joe Biden 氏 (オバマ政権下での副大統領で現在、民主党議員) に不利になるようウクライナ政府に働きかけをした? というものである。

そもそもは Biden 氏の息子 (Hunter Biden 氏) が以前に役員を務めていたウクライナの企業(ガス会社)に汚職疑惑が持ち上がったが、それが不透明となったのであった。その理由に関し Trump 大統領がウクライナの大統領に直接電話をかけ、父との関係も含め調査するよう求めた。これが職権乱用であるとともに、見返り・引き換え(quid pro quo)にウクライナ政府に財政的軍事支援(financial military assistance)をするという圧力をかけたのではないかとされたわけである。Trump 大統領の主張は一貫していて、これはいわゆる大統領選とは別問題で、職権乱用でもないし、見返りなどはないことは電話内容の transcripts (書き起こし) を見れば明らかだとしている。

ウクライナ(Ukraine)は黒海(Black Sea)の北方の共和国であるが、本連載(9)の(2)でも若干触れたように、実はこの黒海の肥沃な北西部あたりが紀元前 4,000 年頃に Aryans (アーリア人種) の Proto-Indo-Europeans (印欧祖語民族) が最初に安住した地と言われている [拙著(2016)「松柏社」、第一部(pp.9-10)参照]。

allegations (<allege: 言い立てる) は印欧祖語の音素形 PIE etymon /LEG/ からで、本連載(12)で見た legal (法律上の) などが同系語であるし、Basic 語 law、また祖語の/G/が[k]音となった selection なども同系語である [同上拙著、第二部、例(87)参照]。

impeachment (弾劾) は強勢のある音節 peach[pí:tʃ]に意味の核がある。動詞 impeach

と似た語形の語に *impede* (妨げる) があるが、*peach* も *pede* も同じ系統である。*impeach*, *impede* は PIE etymon の /PED/ からで、「足」が原義である。{*im* (= *in*) + *peach/pede* (= *foot*)} は「中に足を入れること」→「足かせとなること」→「妨げること、邪魔すること」の意味である。さらに同系語に *pedal* (ペダル)、*pedestrian* (歩行者)、*expedition* (遠征・探検)、*pedometer* (万歩計)、*tripod* (カメラの三脚) などがあるが、よりどころとなる Basic 語に同系語はないか？実はプラス α Basic 語の *path* (小道) が同系。本連載で [p] も [f] も同じ音素 (phoneme) の異音 (allophone) であることは扱ってきているが、本体の 850 Basic 語では [f] 音となる **foot** が同系である。泥縄式の覚え方ではモノにならないわけで、一括的な把握が重要 [同上拙著、第二部、例(26)参照]。

謎掛けなら「*impeachment* (弾劾) と掛けて何と解く？」、「*foot* (足) と解く」、「その心は？」→「*impeachment* は自由を束縛する足かせである」のようになる。

なお、*impeachment* と *foot* はどちらが先に英語となったかであるが、英語史は *foot* のほうが 200 年ほど早かった (逆ではなく) ことを教える。

Trump 大統領の在任中の言説を時系列をさかのぼり追うなか、今回は次を見てみる。

(1) On behalf of @FLOTUS Melania and the entire Trump family, I want to wish you all a very MERRY CHRISTMAS ! May this Christmas season bring peace to your hearts, warmth to your homes, cheer to your spirits and JOY TO THE WORLD ! (November 28, 2018)

▲2018 年のクリスマスメッセージの tweet であった。文パターンとしても普遍性があり、心に刻み込んでおくとよかろう。心地よい響きも感じられる。Trump 大統領がメラニア夫人 (@FLOTUS) と家族ともども、すべての人に送る内容である。

なお、FLOTUS は First Lady of the United States の略。また、Trump 大統領のアカウント名 @realDonaldTrump は別名 @POTUS であるが、President of the United States からである。POTUS は「米国大統領」を意味する政府による古くからある公式の略形である。Trump 大統領に対するハラメントになるが、この POTUS を Piece of Totally Useless Shit の略だとする投稿 tweet をネット上で見もした。

太線語 *entire* の原義を押さえておきたい。印欧祖語の語根音素形 PIE etymon は /TAG/ とされているが、原義は「触れること、触ること」である。*entire* の *en-* は *in-* の異形で否定の意味である。*entire* {*en* (= *not*) + *tire* (= *touch*)} から「触れられていない→無傷である→そのまま→全部」の意味となる。Basic 語 **take, touch, taste, tax**、プラス α Basic 語 *taxi* (タクシー)、*texture* (きめ・生地・織物)、*tissue* (ティッシュ)、*un-Basic* 語 *contact* (接触)、*task* (仕事・任務)、*tag* (付け札)、*tangent* (接線) などはずべて同系語として一括される [同上拙著、第二部、例(11)参照]。

tax (税) は「物品に触って課されるもの」が原義である。この語群では *tag* の末尾音 [g]、*tangent* の語中の *g* の音 [dʒ] に印欧祖語の音素形 /TAG/ の /G/ の痕跡を見る。

なお、本連載(10)の冒頭で若干触れた「部分(*part*)と全体(*unit*)」の関係ともなる微積分の考え方からすれば、*differentiate* (微分する)、*integrate* (積分する) のうち後者の *integrate* は *entire* と同系であることも納得されよう (*differentiate* は Basic 語 **different** と同系)。微分・積分 (*differentiation* / *integration*) は、元々は 17~18 世紀のイギリスのニュートン (I. Newton) やドイツのライプニッツ (W. Leibnitz) が築いた理論であるが、なかなか理解されなく「微 (かす) かに分かり、分かった積 (つ) もり」程度どまりとなるのが微積分の概念である。しかし基本を押さえれば理解できてくる。

Merry Christmas.の merry は「短いこと(short)」が原義で、クリスマスのような「特別に楽しい時間は短く感じられる」というわけである。mirth (歓喜) は同系語である。

文中の下線語の bring とくれば後ろに空間詞で、ベクトル方位語の to を予測することは難しくない。to に関しては本連載(3),(7)ですでに注目したが、誰もが実感をもって to の意味を感じ取ることのできる好例は、誕生日の祝いの歌に出てくる to ではなからうか。簡素な文中で3回用いられる。“Happy birthday to you, Happy birthday to you, Happy birthday, Dear ***, Happy birthday to you.” (これは Basic 文でもある)。

Basic 語 **happy** は merry の意味も包含する。クリスマス以外は merry とは言わず happy であるが、Christmas[<Christ + Mass(ミサ)]も Basic では Happy Christmas! とか Great Xmas! とは言える。happy の原義「獲物の頭を捕まえることのできる偶然の幸運さ」→「喜び」は本連載(4)の②、(12)などで見た。なお、クリスマスでの Santa Claus は子供などの守護聖人の Saint Nicholas (聖ニコラス) に由来する。

(2) Sebastian Gorka, a very talented man who I got to know well while he was working at the White House, has just written an excellent book, “Why We Fight.” Much will be learned from this very good read! (November 28, 2018)

▲一時ホワイトハウスのアドバイザーで、Trump 大統領がよく知るセバスティアン・ゴルカ氏が新刊書『なぜ我々は闘うのか』を出版し、それを高評価している内容である。

太線の Basic 語 **very** は PIE etymon の原音形 (音素形) /WĒRO/ が発生源とされていて、ラテン系では語頭子音[w]が[v]となった。原義は「真実なこと」で、同系語に verify {ver (= to be true) + ify </FAK/ = to make, do} (立証する)、verdict {ver (= to be true) + dict (= to say)} (評決) などのラテン系の語がある [同上拙著、第一部 p. 20 参照]。なお、ラテン系スペイン語で verdad は to be true (真実) の意味であり頻出する。

太線の Basic 語 **who** であるが、Basic では **what** と **which** の2語は **who** からの派生と考え 850 語の語表には掲載されない。人間を表す who で代表させ、モノの what (= that which), which は派生語と見なす Basic の1つの鬼則?である。いわゆる ‘5 W’s and 1 H’ (**who, what, where, when, why, how**)とともに **which** も、すべて発生源として PIE etymon の原音素形/KWO/に由来し、原義は「問い求めること」である。これら7語の同系語に Basic 語 **question, request, quality, equal** があるし、プラスα Basic 語に **quantity** (量)、**quotient** (指数・比率・商)、un-Basic 語に **whether, quiz, inquire, require, quotation, etc.** がある [同上拙著、第二部、例(56)参照]。

なお、文中での who は略式で、学校英語で who を×、whom を○とし評価していると実際上で問題がある。略式⇒正式の順での扱いは実用的である。常に正式な英語ばかりは頭を堅くする。関係詞は N. Chomsky 理論が有益となるが、日本の **Graded Direct Method (GDM)**による関係詞の扱い方は一括性を欠き、手早くなく、まどろっこい印象をもつ。率直な気持ちである。時間をかけるわりに総括的な把握はしにくからう。

文中の下線語 learned と read (読み物) の用いられた文 Much will be learned from this very good read! は Basic 文か否か? learned を had など、また read を book とすれば Basic 文とはなる。しかし、こういう learned, read も **Wider Basic (拡張 Basic)** [仮称] を設定すれば許容できる。Basic 文か否かの微妙な境界線上にあるような表現の便利な受け皿となる。Basic で learning から learner、reading から reader を導き出すのであれば、Basic の範疇として learned や ing 接辞を除去した名詞としての read なども拡張的に許容してもよからう。意味理解上で特に困難さが伴うわけではない。

文中の語 **talented** は本連載(7)の②で、また **while** は(2)の②ですでに扱った。語頭が[w]音の **working**, **written** は事実上(4)の③で扱った形になる。また **excellent** の語根部 **cel** は「突き出ていること」が原義で、プラス α Basic 語 **hill** などは同系語である。

ところで、上の(2)の最初の文は8つの深層的な kernel sentences (核文: KS) が表層上に投射され1つの full sentence (全文: FS) として具現したとみることができる。

KS : Sebastian Gorka is a man. He is a very talented man. I got to know him well. That was while he was working. He was working at the White House. He has just written a book. It is an excellent book. The title of the book is “Why We Fight.” ⇒ **FS** : **Sebastian Gorka, a very talented man who I got to know well while he was working at the White House, has just written an excellent book, “Why We Fight.”**

KS ⇔ **FS** の相関関係がここにある。簡素さそのものの味の KS 文ばかりの羅列なら思考上の負担はないが、一般には英文はこのような FS 文として表層上に具現する。これが N. Chomsky 風の sentence-combining transformations (文結合変形) の適用による transformational grammar (変形文法) の核心部でもある。KS ⇒ FS では、パッチワーク(patchwork)風にして整然とした統語法(syntax)の風味を味わうこととなる。